

とりあえず 人生

「ハハ」と同志の連絡ノ止に 新年は

とりあえずを やめよう とかいい

とりあえずが という言葉は とて便利だ

とりあえずが ありつづけておこす

とりあえずが これ付あとしよう

とりあえずが ここにふいつふとろ

「い」 「い」 「い」 「い」 「い」 「い」 「い」 「い」 「い」 「い」

かえりあれり ちがことばのあやうで

何とかな 命途生かすか

とりあえずは 便利であると日毎に 責任が

あり ひとりの言いの山花

考えのみにあらず 長い間 言いのあれの

その場がありの日々を送つてきた

そのための期間がせうと いつた大あつた

とりあえずの甲一考大なる被る付 鏡の中の

取正 取正 手紙をいかにする 君がりが戻る

そして私の年令にあると 三つは無罪だ

六十代で加くと おかあやあつた

すゝようと思つても もつていりあ

そのうちには どのうちにと 不甲の木の  
 たりとて来り  
 木の葉 そのうろには きちんと岸が45  
 と思つていさうだ  
 実行不むつかしの心  
 とりまゑに 不甲の物を分するニとほし  
 だ木の毎日のそんじ  
 耕の物を降る 手つもらさ 今回(下)ス  
 此のい その甲の不甲の物は とうとうの甲へ  
 へれ

こころやうて 古い在庫をへうしてい  
 西の物付け印して つかいあつた 班布はす  
 このうろろをこは 永遠に つかさそ  
 お正月に 閑居する つかさそ

2019  
 12/29